INTERVIEW

第2位に輝いた当時20歳 印象に残ったのは意外にも…

2002年、世界の最高峰「チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門」で、日本人としてはもちろん、女性として史上初の第1位に輝いた上原彩子さん。「浜松国際ピアノコンクール（以下、浜コン）」で第2位を獲得したのはその2年前だった。

本人いわく、「コンクールの世界は10代の子が多いのですが、浜コン当時、私は『もう』20歳。若い子には負けられない！と朝から晩までがむしゃらに練習しました。予選を含めて約15曲。課題曲の約10曲を通して弾いても2〜3時間の分量を、楽譜なしでも弾けるようになる必要があったので」と、ピアノ界の厳しさを感じる話だ。

それだけ入れ込んだのには、理由があった。「第1回の優勝者セルゲイ・ババヤンさんが、偶然私と同じ先生に師事していたのです。それを知って受賞後のコンサートを聴き、とても感銘を受けました。“浜松ピアノアカデミー（ピアニスト養成機関）”でたくさんのことが得られたことも大きな理由です」

時を経て一番印象に残っているのは、意外にも演奏のことではなく、「練習場の案内や会場でのフォローなど、浜松のボランティアさんの心温まるサポートです。ピアニストは皆、極度な緊張の中にいます。予選で落ちてしまった仲間がいると、会場内でどんな顔をしてすれ違ったらよいだろう…など、ささいなことにも気をつかってしまいます。なので、いつでも親切な地元の方には本当に癒やされましたね。浜松駅前にたくさん並んでいたポスターからも『応援されているな』とパワーをもらえました」と懐かしむ。

「音楽の街・浜松」というと、企業や施設のことが話題になりがちだが、「演奏する人間」を陰で支えるのは、案外、浜松人のこういった何げない心遣いや温かさなのかもしれない。

ピアニスト 上原彩子さん

プロフィル
3歳よりヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。「第4回浜松国際ピアノコンクール」第2位、「第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門」で、第1位を獲得。ゲルギエフ、インバル、ロストロポーヴィチ、ルイジなど国内外の巨匠と共演、高く評価されている。2008年第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト受賞
撮影：三浦興一

精神を集中し、時にやさしく、時に激しく鍵盤をたたく

アジアで唯一 世界連盟に加盟

カワイ、ヤマハの2大ピアノメーカーが本社を置く浜松市では1991年、音楽の街を世界に発信すべく、「浜松国際ピアノコンクール」をスタート。以降、3年おきに開催を続けてきた。

アジアで唯一国際音楽コンクール世界連盟に加盟するとともに、日本人ピアニストの代名詞で紫綬褒章受章者でもある中村紘子さんが、審査委員長を務め、注目を集めている。

今年は3年に一度の開催年。市内ではさまざまな音楽イベントが催される

ささやくようなピアニシモから
力強いフォルテシモまで
弾き手によってさまざまな
音色を響かせるピアノ。
若きピアニストたちが力を競う
「浜松国際ピアノコンクール」は、
世界へと続く夢の入り口だ。

第7回浜松国際ピアノコンクール　11／8（日）から開催

世界を夢見る才能たちが表現の極限に挑む

最後は6人の本戦。第1位には国内と海外合わせて10回の公演チャンスを提供

前回、王座に輝いたアレクセイ・ゴルラッチさん（右）と中村紘子審査委員長

張りつめた緊張感が客席の隅々にまで

これまで無名だったピアニストが同コンクールでの上位入賞をきっかけに、ショパン国際ピアノコンクールやヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールといった大舞台で栄光を勝ち取るケースも珍しくない。前回第1位のアレクセイ・ゴルラッチさん（ウクライナ）は今年5月のAXAダブリン国際ピアノコンクールで優勝している。

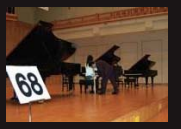
彼について中村紘子審査委員長が「爽やかにしてみずみずしく、音楽そのもののかたちをいささかの誇張もなく美しい音色で表現した」と激賞したように、テクニックだけでなく演奏に表れるその人の価値観、生き様にも審査の目が及ぶ。一方、客席にはコンテスタント（出場者）のピンと張りつめた緊張感が伝わり、ピアノの知識がない人でも力量を直感する。ピアニストを、発掘、できるのも醍醐味。

今回は229人の応募の中から予備審査を通過した103人を出場承認。予選ごとに曲目や形式が変わり、アラカルト的に楽しめるほか、リーズナブルな入場料もうれしい。ひいきのコンテスタントを決めて、応援しながら見守れば興味は尽きないだろう。

舞台裏はこうなっている

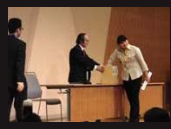
出場承認者 103人

運命のピアノ選び



コンテスタントはヤマハ、カワイ、スタインウェイの3台の中から期間中に使用するピアノを選ぶ。15分間の試し弾きで音色や感触を確かめ、その後の運命をともにする。

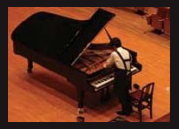
第1次予選 103人



選択3曲を20分以内で演奏

モーツァルト、ベートーベンのソナタ、ロマン派作曲家の作品の中から各自が選んだ3曲を20分以内で演奏。第1次予選で早くも約4分の1の25人に絞られる。

誰もいない深夜のホールで



昼間の興奮が冷め、ひっそりと静まり返った真夜中のホールで各楽器メーカーの調律師たちが奮闘。最高の音を引き出すため、夜を徹してチューニングが続けられる。

第2次予選 25人

邦人作曲家新作品で競う

課題曲に加え、著名作曲家、西村朗さんと権代敦彦さんが作曲した新作品のいずれかを40分以内で演奏する。ここでの審査で「日本人作品最優秀演奏賞」受賞者が決定。

第3次予選 12人

リサイタルで個性をアピール

演奏時間60分以内でそれぞれ自由にリサイタルを構成して演奏。得意とする自由曲を効果的に組み合わせ、持ち味をアピールしようとコンテスタントの顔も引き締まる。

本選 6人

東京交響楽団と夢の共演

課題曲のピアノ協奏曲のうち任意の1曲を選択し、東京交響楽団（指揮：大友直人さん）と共演。オーケストラを従えた演奏は6人のファイナリストだけに与えられる特権なのだ。

表彰式・入賞者披露演奏会

世界水準の環境を誇るアクトシティ

ショパンの丘や音楽広場などがあるアクトシティは浜松市のシンボル

四面舞台と3層4階の客席が並ぶ大ホール。本選当日には聴衆で埋め尽くされる

1030人の客席を備えた中ホール。舞台奥にはパイプオルガンが設置されている

音響効果抜群の優雅なホールでじっくり鑑賞

「浜松国際ピアノコンクール」の会場はＪＲ浜松駅と地下道でつながるアクトシティ浜松。予選が行われる中ホールは、プロのレコーディングにも使われるほど優れた音響を持つ。本選の会場となる大ホールは２３３６席の客席を備え、日本初の四面舞台と最新設備でオペラ、バレエ、歌舞伎といったあらゆる舞台芸術に対応。また、コングレスセンターには大型スクリーンが設置され、ステージの模様をリアルタイムで映し出す。

開催に先立ち、9月23日（水・祝）には中村紘子トーク&コンサート、10月17日（土）にはピアノの魅力を探る音楽アラカルト「いい音ってなんだろう?」が催され、コンクール期間中は審査委員がセミファイナリストを対象に行う公開レッスンも見学できる。クラシック音楽を身近に感じるまたとないチャンスだ。

中ホール屋上に広がる「ショパンの丘」。丘の上にはポーランド・ワルシャワ市から贈られたショパン像がある

浜松市楽器博物館も見逃せない

隣接する「浜松市楽器博物館」では、ヨーロッパの鍵盤・管楽器、琵琶、三味線、アフリカの楽器などを常設展示（詳しくはＰ22参照）。11月20日（金）にはコンクール記念レクチャーコンサート「ショパン・ピアノ協奏曲第1番室内楽版～プレイエルピアノによる」が行われ、ショパンが生涯愛したプレイエル社製フォルテピアノの美しい音色と弦楽によるピアノ協奏曲が披露される。コンクールと併せて楽しみたい。

道路を挟んで隣接する楽器博物館。世界の楽器を通して歴史を知ることができる

レクチャーコンサートで使用されるプレイエル社製「フォルテピアノ」

第7回浜松国際ピアノコンクール

主　　催　浜松市・財団法人浜松市文化振興財団
開催期日　第1次予選／2009年11月8日（日）～12日（木）
第2次予選／2009年11月13日（金）～15日（日）
第3次予選／2009年11月17日（火）～18日（水）
本選／2009年11月21日（土）～22日（日）
表彰式／2009年11月22日（日）
入賞者披露演奏会／2009年11月23日（月）
会　　場　予選／アクトシティ浜松中ホール
本選・表彰式・入賞者披露演奏会／アクトシティ浜松大ホール
※入場料については公式ウェブサイトをご覧ください
※イベント日程や内容は、予告なく変更になる場合があります

■お問い合わせ／
浜松国際ピアノコンクール事務局
〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1
財団法人浜松市文化振興財団内
Tel.053-451-1148　E-mail. info@hipic.jp

ストリーミング配信でも聴ける！ 詳しくはホームページで。

www.hipic.jp